

SHIMIN
市民フォト
PHOTO

鹿児島

NO.
67

平成9年1月1日発行

☆特集 / いつでもどこでも笑顔は同じ
～国際交流～





わが町 上空散歩

花野団地上空から

写真中央部にひろがる住宅群が花野団地である。その上に緑の山々が皆与志町、岡之原町に連なっている。写真下部を通る道路が千年団地・国道3号と花野を結んでいる。

写真右下で、空色の体育館と広いグラウンドを持つているが、花野小学校。約八百五十人の生徒が「なかよく、かしこく、たくましく」をモットーに勉学に励んでいる。また、サッカー、バスケットボールなども盛んである。

写真中央部左の赤い屋根のアパートの一群が市営住宅。その周りは個人住宅と緑の公園が整然と並んでいる。

この団地は昭和五十二年から平成元年にかけて造成開発されたもので、約千三百世帯、四千五百人が暮らしている。

一年を通して、花と緑に囲まれて、季節を感じながら暮らすことのできる、空気のすがすがしい街である。

CONTENTS

市民フォト鹿児島	No.67
わがまち上空散歩	2
【特集】国際交流	3
クローニアップ ● 柳田一郎さん	12
学校探訪 ● 宇宿小学校	14
カメラトビックス	16
ハロー鹿児島 ● フォト・ロバートンさん	18
シライアングル ● 見上げてらん	19
私の好きな場所 ● 橋田邦通さん	20
ふるさとの歴史探訪	
● 新城垂水家初代島津久章の墓	22
よかタイム ● 唐見友輔さん	24
かこしまの自然 ● 小山田町	25
市民ギャラリー ● 武・田上公民館	26
あなたのフォトサロン ● 佐藤真一さん	28
集えば楽し ● 皆房棒踊り保存会	30
市立美術館 ● 三聖図	31

● 表紙写真説明

新春の鹿児島女子高等学校、玉里邸庭園の茶室。小振袖に袴姿の若い女性が百人一首に興じている。

歌が詠み上げられる度に、緑、赤、桃、黄が鮮やかに動く。新年の初々しい張りつめた空気と和やかな笑いが場を包む。メンバーの願い事は一つ。どうか今年もよい年でありますように……

モデルは、ミス鹿児島の脇田美香さんと鹿児島女子高等学校の生徒さんたち。

【特集】 いつでもどこでも 笑顔は同じ ～国際交流～



国際交流―

どういうイメージを持たれま
すか？

外国語が流暢に話せないといけ
ないのではないが、普段は海外の方と
交流を持つ機会がないのでは、と
思っていらつしやいませんか。

今回の特集では、まず、鹿児島で
明るく楽しくがんばっている海外の
方や、交流を深めている市民にス
ポットを当ててみました。また、鹿
児島市と交流を深めている姉妹都
市・友好都市も紹介していきます。

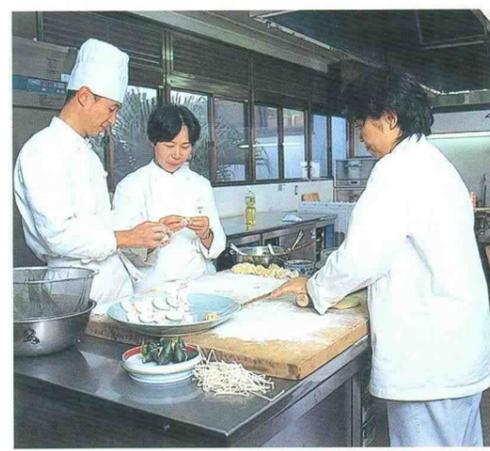
そこには、多くの人々が一人の人
間として心と心の交わりを結んで
いる風景がありました。お互いの文化
の違いを認め理解しようとする気持
ち―それは、国際交流はもとより、
人と人の付き合いの基本なのかも知
りません。

気軽な気持ちで、この特集を手
取り、これらのあたたかい風景を眺
めていただければ幸いです。

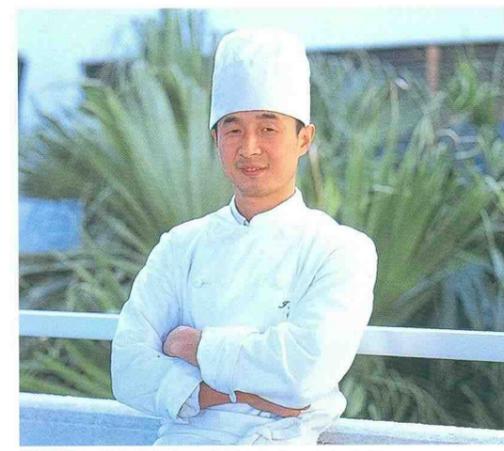
炎の料理人!? 登場



福祉ふれあいフェスティバル屋台コーナーにて



専門学校でクラスメートの方々と



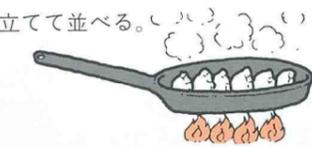
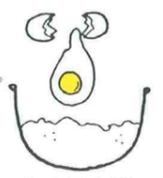
「調理服に身を包むと、背がシャキッとします。」

林流 かんたん飲茶 ぎょうざの皮



- (材料) 180個
ぎょうざの皮
- 小麦粉 (強力粉) 1 kg
 - 片栗粉 100g
 - 炭酸 (ソーダ) (重そう) 10g
 - 玉子 4個
- ぎょうざの具
- 豚ひき肉 (500g)
 - キャベツ (500g)
 - しいたけ (6枚)
 - ザーサイ (20g~30g)
 - 竹の子 (50g)
 - 小ねぎ (1束) } 小口
 - にら (150g) } 切り
 - しょうが (20g) } せん
 - にんにく (1かけら) } 切り
- 上を合わせて、しょう油(大さじ2)、ごま油(大さじ2)、豆板醤(小さじ1)、こしょう少々、バター少々、鶏がらだし(8g)を入れませる。
- 皮は冷凍庫で保存できる。
 - ぎょうざは皿の上で凍ったものを袋に入れて保存すれば良い。

- (作り方)
- ①. 材料を合わせて、まとまる適度の水を入れる。
 - ②. よくこねて、まとまったら3~4等分ぐらいに分け長丸型に丸める。
 - ③. ②を麺棒で軽く伸ばす。(強力粉をふりながら)
 - ④. ③をパスタなどを造る機械にかけ薄く1~2mmの厚さで幅10cmぐらいの帯状に引き伸ばす。(時間がかかるが、麺棒で伸ばしても可)
 - ⑤. ④を茶わんや、型でくり抜く。
 - ⑥. 皮の中央にティースプーン山盛弱の具をのせ二つ折りにし、上になる方を折っていく。(具を入れすぎると折りにくくなる)
 - ⑦. 焼く。フライパンに油を少々入れぎょうざを立てて並べる。
 - ⑧. ⑦に焦げ目がついたらカップ1の水を入れふたをする(蒸すような感じ) (中火)
 - ⑨. 盛り付けは焦げ目をみせて盛る(たれがなくてもおいしい)



「(笑)」
一口食べたそのちまきには、きっと林さんの真摯な心の味もしてきていたであらう。

林さんの目標は、鹿児島島の素材と、長沙の料理法のアレンジ。それだけに鹿児島への思い入れも深い。

「鹿児島島の一番の宝は人。奥さんと知り合わなければ私は鹿児島にいません。二番目は海。鹿児島に来て、釣りが趣味になりました。さしみの味のすばらしさも錦江湾のカワハギから教えてもらいました。」

林さんが通う専門学校のクラスメートの藤村アイ子さんに林さんの魅力を感じてみた。

「林さんに教えてもらったのは、料理は楽しいということだと思います。グループで料理を勉強して、味見をしながら、おしゃべりをして…。そのおしゃべりで冷蔵庫がこわれて困っているという話が出たら、来て修理してくれたりとか…。料理ひとつからいろんな方向に関係が広がっていく感じですね。」

最後に林さんの言葉。
「ぼくにあって、料理は国際交流そのものです。」

料理ひとつから
いろんな方向に関係
が広がっていく……

林 亜洪さん(中国)

昨年11月に開催された福祉ふれあいフェスティバル。屋台コーナーで中華なべから鮮やかな炎を噴き出させている料理人を見かけた。なべの回転と同時に立ち上がる炎とチンジャオロースのこうばしい香り。その炎の料理人こそ林亜洪(リン・アコウ)さん。林さんに頼んでその料理を披露してもらった。

林さんは中国長沙市の出身。元々は高校の物理の先生であったが、鹿児島島の女性の方と結婚し、新天地鹿児島で生活することに…。今から1年前のことである。

その時考えたのが、
「中国のことを鹿児島の人に知ってもらうには料理が一番。」

林さんは市内薬師の専門学校に通うとともに、故郷長沙市でおばあさんから習った家庭料理の勉強に取り組んだ。今では、ぎょうざやちまきなど「林亜洪ブランド」の味を作り上げるまでになった。そのファンも多い。

「ぼくは、料理の家庭訪問をするんです。」

さすが、元高校教師の言葉!。専門学校の友だち、奥さんの友だちなど知り合った人々の家を訪問し、心を込めた家庭料理を披露する。

「最初は要領が判らずにおうかがいした家でちまきを5時間蒸していました。みんなでじっと待っていました。」

広がれ交流の輪

外国の方と交流することは
自分自身を見つめ直すこと

生け花を通しての交流

鹿児島市にALT (語学指導助手)として赴任したイングリッシュ・ミッシェルさん (アメリカ)。大の日本文化愛好者。鹿児島市の印象は、「人はスワイト、文化面ではサムライ・カルチャーを勉強できて本当に鹿児島が好きです。」そんなミッシェルさんが一度やってみたくて思っていたのが、生け花。そこで、国際交流市民の会で活動し、生け花の交流も進めている。末吉美栄子さんと一緒に生け花をとお願した。



生け花から話がどんどん広がっていく。

イングリッシュ・ミッシェルさん

末吉美栄子さん



ミッシェルさんの作品? だということです。

(末吉美栄子さんに聞く)

・生け花やホームステイなど多くの外国の方と接しての感想は?

ホームステイなどの方を連れて観光地などを案内していると、色々な質問を受けます。「おみくじはどうして木の枝に結ぶの」日頃、判っていると思っていることが、とっさには答えられないんですね(笑)。だから、外国の方と交流することは、自分の身の回りの事、あるいは自分自身を見つめ直すことにもつながるのではと思います。

(ミッシェルさんに聞く)

・生け花をしての感想は?

枝の長さやしなりにも目的があり、それらが合わさったスペースに意味があるというのは、西洋にはない概念ですね。私は少しでも多くの色を使うことがいいことだと思っていましたが、少ない材料で美しさを表現するんですね。世界中の人々が知りたいことが沢山あるのではと思います。これから、市内の維新ふるさと館などいろんな文化施設を見学して、多くの文化を学びたいと思います。特に鹿児島はサムライ・カルチャーの中心だと聞いているから楽しみです。



家族の目に映る鹿児島 ティンチャー・ファミリー

みんな少しずつ違うだから世の中は楽しい



自宅の玄関前に一家8人勢ぞろい



【マリアンさん】鹿児島島で好きなのは、食べ物。すしはおいしいと思います。でも、なんといってもラーメン。鹿児島のラーメンは博多に負けてないと思う。



【ジョン君】鹿児島は森が多い。そしてきれいな人が多い(笑)。好きなスポーツは健康の森公園。水泳、バドミントンなど。自然の中で思いっきり運動するのがいいね。



【転職】ポールさんは、以前は翻訳の仕事をしていましたが、鹿児島に住むために、その仕事をやめ、現在、私立中学校と塾の先生をしています。

【家族構成】お父さんのポールさん、お母さんが何と6人。ジョン君(16歳)、マリアンさん(12歳)、アナさん(8歳)、サムエル君(6歳)、ジョセフ君(4歳)、ルーシーちゃん(2歳)。
【来鹿】一家は以前福岡にいたが、旅行で鹿児島島の自然の美しさのとりこになり、1年前に越してきました。

【子ども達へ】ポールさんから鹿児島の子どもたちへ。みんなの目の輝きがある。だけど、少しずつ違う。だから世の中は楽しいともいえる。民族間でも、同じクラスメイトでもそう。心を開いて楽しくコミュニケーションすることで、違う文化、違う個性を理解し合えるんだ。

私も鹿児島のことを勉強しますのでマレーシアのことも興味を持っています!

マレーシアからの留学生 スハイラ・イスマイルさん



果実畑



アイスクリームのお店でバイト



本当ノいい笑顔ですよ

【目的】鹿児島大学の工学部で電気電子の勉強をしています。現在来日して2年9カ月。
【印象】日本に来て、四季の変化のすばらしさを知りました。でも冬はダメです(笑)。鹿児島はやさしい人ばかりで住みやすいところですね。
【バイト】アイスクリームが好きだったので、この店でバイトさせてもらっています(笑)。私のペール姿を見て声をかけてはげまして下さる方もいます。
【アフター5】バイト先の女の子たちとカラオケやボウリングによく行きます。カラオケは長瀬剛さんや酒井法子さんの歌が好きです。
【国際交流】マレーシアのことをよく知っている方が少ないですね。私も日本や鹿児島のことを勉強しますので、鹿児島から近い国々のことマレーシアのことをもっと知ってもらえればと思います。

日本語教室の子ども

ゼイ・ヤ・トウン君 (ミャンマー)
 名山小学校にある日本語教室。本市に住んでいる海外の子どもたち(小・中学生)がスムーズに学校生活にとけこめるように、日本語や生活慣習・文化などを学ぶことのできる場である。現在、通級している子どもたちは12名。アジアからの子どもが多い。
 今回はその中で、ミャンマーから来ている、ゼイ・ヤ・トウン君にお話を聞いてみた。トウン君は名山小学校の2年生、鹿児島島に来て9カ月である。

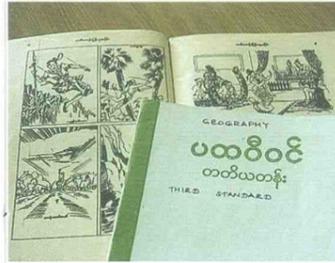
友だちはミャンマーの時の半分できた、
 今年はあと半分できたらしいな



クラスメートと校庭で元気よく



- ①友だちはできましたか。
 ミャンマーの時の半分くらいできました。3年生までにあと半分つくりたいです。
- ②好きな遊びは何ですか。
 木のぼり、陣とり、おにごっこです。ミャンマーでもやっていたおにごっこなどは日本の友だちに負けません。
- ③好きな食べ物は何ですか。
 ハンバーグです。ミャンマーではモーヒンガ(魚料理)が好きでした。
- ④ミャンマーの好きなところは。
 お寺です。黄金がヒカヒカで神様がたかくさいそうです。
- ⑤鹿児島はどこが好きですか。
 平川動物公園です。ミャンマーにも動物公園はありますが、平川動物公園のライオンの方が強そうです。
- ⑥大きくなったら何になりますか。
 野球選手になって、日本のテレビに出てみたいです。



ミャンマーの教科書

国際交流について、市長に聞く

**人と人がふれあつて
 みせる笑顔を大切に**



赤崎義則 鹿児島市長

①今、鹿児島市では多くの外国の方がいきいきと活躍されています。そこで赤崎市長に国際交流における本市の役割をお伺いしたいと思います。
 ・まず、国際交流とは、お互いの国の市民と市民が交流を深める。これが本質でしょうね。そして、我々行政は、それをサポートする、あるいはそういう場をつくらなければならないと思います。本市の施策としては、まず、姉妹都

市・友好都市との交流が挙げられます。その交流の一つとして、中学生・高校生など若い市民を毎年三十名、姉妹都市に派遣しております(青少年の翼事業)。これは、これからの鹿児島をになう若者に、若いうちから国際感覚を身につけていただくという趣旨です。
 また、本市では、国際交流市民の会というものをつくっております。多くの団体、個人に入ってもらっています。そして、キャンプやバスツアー、料理講座

などを行い、参加した外国の方との交流を通してお互いの文化を理解する輪を広げていただいております。さらに、外国人留学生へ図書券と共通回数乗車券を毎年さしあげております。鹿児島をもっと良く理解していただき、市民との友好の絆を深めてもらえればよいですね。
 最後に、これから力を注いでいくものとしてアジアとの交流の促進が挙げられます。本市は昨年初めての中核市に指定され、南九州の拠点都市として、21世紀に向けた新たなまちづくりの第一歩を踏み出しました。その中で、南の玄関口である鹿児島とその近くにあるアジアとの交流、それも、民間レベルでの交流を促していくことが我々行政の重要な仕事になってくると思います。昨年は東南アジアの方々を招いての交流セミナーなどを開催しており、これからも市民同志の交流をサポートしていきたいと思っています。

②市民のみなさんへ国際交流について一言お願いします。
 ・まず、国際交流というと何か難しいことのように感じますが、そうではないということです。お互いに国境の枠を取り除いて、心と心を通い合わせる。そのことが最も基本的なことだと思います。昔からの友だちであろうと新しい海外の友だちであろうと、人と人のふれあひの中から生まれる笑顔はこの国の人も同じです。だから、その笑顔を大切にすることが大切だと思います。



バスツアーにて



昨年11月開催された
 東南アジア交流セミナー

交流を深める市民

交流とは、
 手伝うのではなく
 友達になること



渡辺利雄さん〜ホストファミリーの草分け

(きっかけ) 市場で中国人留学生と知り合って、家によんだのが始まり。
 (交流は何人でも) 交流をするのは一人ではできない、家族や夫婦ですもの。私たちも夫婦でアジア・南米など各国の留学生と付き合っている。
 (交流とは) 手伝うのではなく、友だちになること。
 (交流の原則は) 人と人の付き合いだから、いいことばかりではない。時にけんかすることも(笑)。とにかく普通に付き合っている。
 (何か相談を受けますか) アパートを探して欲しいという留学生が多い。時に、住宅の敷金で大家さんとトラブルが起こることもあるようだ。住宅の敷金はいわば、日本的な慣習。お互い事前によく話し合い理解することが大事だと思つづくと思う。
 (交流で大事な事) 敷金のトラブルが象徴的。相手を理解するためには、思いやりプラス、前もって相手の国の文化などを勉強しておくことも大事。

海外も
 遠い国ではない
 マレーシアだったら
 新潟に
 行くぐらいの感じ



米田愛さん〜マレーシア水産庁ホストファミリー

(きっかけ) 中学生時代にALTの先生の話から、国際交流に興味をもち、マレーシアの友と文通をするようになったのがきっかけです。
 (お父さん、お母さんは) 母はすぐ味方になってくれたんですが、父がなかなか忙しくて(笑)。でも、マレーシアの方が家に来るようになって、父も興味が出てきて、この前は国際交流課の東南アジア料理講座に行つたみたいですよ。
 (では、お父さんがマレーシアの方に料理を) まだ、そこまでは(笑)。
 (マレーシアの方を見ていて感じることは) 普通、文化・民族が違つて分り合ひるのが難しいと思いますが、逆に私は、日本人とマレーシアの人の感覚が同じだと思つたことが何回もありました。恥じらうところ、勤勉なところ、がまんして最後に切れるところ(笑)。
 (交流で得たものは) 街で海外の方を見かけると以前は、「ワー外人！」だったのが、身近に感じるようになりました。海外も遠い国ではなく、マレーシアだったら、新潟に行くぐらいの感じ?(笑)

特集 国際交流 姉妹都市 友好都市

ナポリ市 (イタリア)

太陽に祝福された青く澄むまち



南イタリア最大の美しい港町。さんさんと降り注ぐ太陽のもと、海青いナポリ湾の向こうにはヴェスビオ火山の美しい山容。「ナポリを見て死ね」という言葉まで生まれた。同じく美しい湾と火山を有する鹿児島市は古くから「東洋のナポリ」と呼ばれており、風景が似通っていることから、姉妹都市盟約が結ばれた。

青少年の翼に参加して:

(平成8年度青少年の翼ナポリ市訪問団・亀田晃一さん)
・まず、驚いたのはナポリ市の港からヴェスビオ火山を後ろに望む景色があまりにも鹿児島市に似ていることでした。イタリア人は底抜けに明るく、街には活気がありましたが、都市部の交通事情や夜間の治安など問題点も感じました。
・私のホストファミリーのパオ君(大学3年生)は、卓球が上手で、私も以前やっていました。ナポリの最終日、試合をしましたが、結果は一勝一敗の時間切れでしたが、別れの空港で決着は鹿児島でつけようとうと笑顔で言ってくれたのが印象的でした。
・研修で感じたこと、得たぬくもりを大事にして何らかのかっこうで国際交流にタッチしていきたいです。



ナポリ市ホームステイ先にて

青少年の翼とは
将来、国際交流の担い手となる青少年の育成を目的に、平成2年度から実施。毎年、中・高校生、青年など30名を姉妹都市に派遣している。今回は、青年10名をナポリ市に派遣し、ホームステイを行いながらナポリ市民との交流を行った。

長沙市 (中国)

若き日の毛沢東が学んだ風光明媚なまち



「霜葉は二月の花よりも紅なり」唐代の詩人杜牧が感嘆した長沙市岳麓山の紅葉である。長沙市は風光明媚の地として知られている。また、長沙は若き日の毛沢東が革命への情熱を高く燃やしたまちでもある。人を引きつけて育てる何かが長沙市にはある。同市は中国華南の内陸部湖南省の首都。観光のほか伝統工芸の刺繍、お茶、たばこ、酒など産業も盛ん。本市は、地理的に中国大陸とも近く歴史的関係も深いことから長沙市と友好都市の盟約を結んだ。

長沙市研修生、日本文化に挑戦!

長沙市から去年四月、二人の研修生が本市にきた。羅昭平さんと陶華さん。二人は今、市の国際交流課で、日本の地方自治制度などの勉強をしている。行政の勉強のほかに、日本や鹿児島市の文化に触れることにも積極的な彼女たち。そこで、今回は、二人に鹿児島アリーナの弓道場で日本文化「弓道」を一日体験してもらった。

(羅昭平さん)

今のように豊かな生活の中でも、伝統的な文化を大事にする気持ち。これが鹿児島市の温暖な人情につながるのではと思います。

(陶華さん)

弓道の射法の基本から教えていただきました。その中でも一番強調されるのは、精神の落ちつきと最後までがんばる忍耐力。この精神をこれからも学んでいきたいと思っています。



羅 昭平さん 陶 華さん



弓道連盟のみなさんと楽しい語らい

パース市 (オーストラリア)

広大な自然の中にうつつ然と現れる近代都市



深い森林、はるかなる砂漠、太古を思わせるオーストラリアの風景の中に浮かび上がってくる近代都市パース。先端技術を象徴する高層ビルと森林公園の広大な緑が違和感なく同居しているまちである。鹿児島市とパース市はそれぞれ北緯・南緯32度という類似性から姉妹都市盟約が結ばれた。
パースの最大の魅力は、市民の自由なライフサイクルだといふ。広い大陸の中で、自分の時間を大切に人々の笑顔に触れてみることで、また何かが見えてくるかも知れない。

動物親善使節

広大な敷地と多くの動物たちで賑わっている平川動物公園。ここにも、多くの「動物親善使節」がいる。みなさんは、海外からの動物という何を思い出されるだろうか。姉妹都市・友好都市などからの動物君たちに登場願った。



コアラ (オーストラリア・クィーンズランド州)



ハイロカンガルー (パース市)



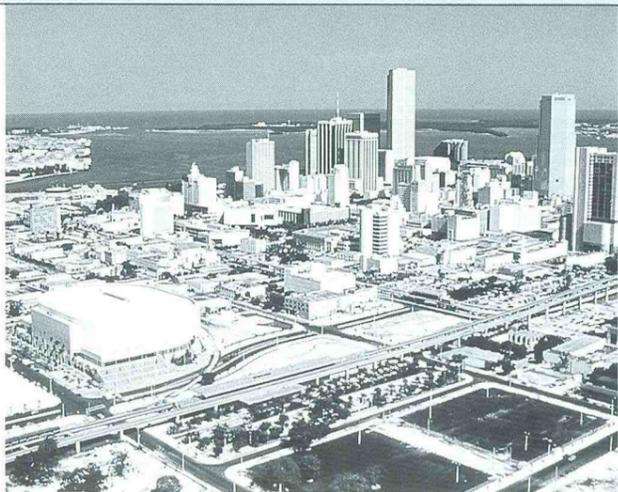
ウンビョウ (長沙市)



レッサーパンダ (長沙市)

マイアミ市 (アメリカ)

ラテンの匂い立ちこめるカラフルなまち



鹿児島県の「世界へ通じるみち」

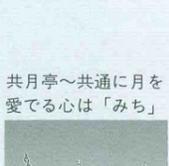
「ローマのみちは全てに通ず」という。ローマが世界帝国の頃、全世界に影響力を持っていたことのとえとして使われたことわざ。「みち」というのは人と人の交流に非常に大切なもの。そこで、鹿児島市内の海外の都市名などが付いた「みち」を挙げてみた。島国日本ではあるが、国際交流のみちは海を超えて通じ開けているのである。



マイアミ通り～平成6年命名式



パース通り～ツツジがきれい



共月亭～共通に月を愛でる心は「みち」



ナポリ通り～西鹿児島駅から伸びる。

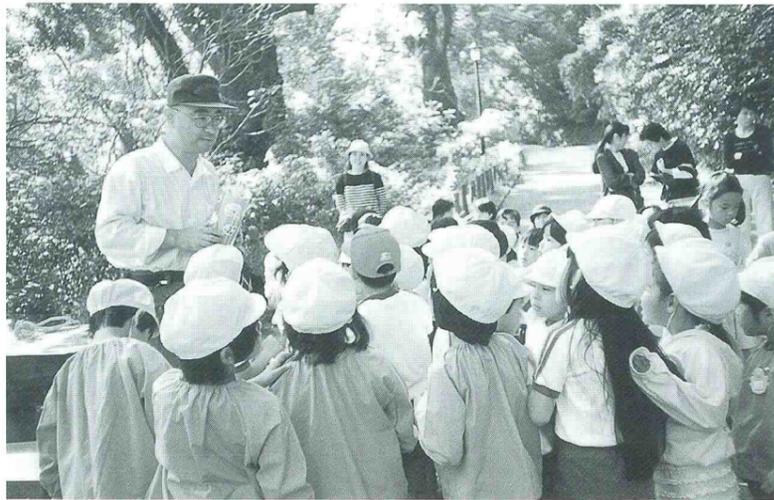
CLOSE UP クローズアップ

災害を見てそれを防ごうとこの道に入り、
今では自然を愛し、「森を支える人」になった。
この気持ちを次の世代に伝えたい。

「今、多くの人たちが口にして
いる『アウトドア』は、人間が自分
たちに都合のいいように作り上げた
もので、本当の自然ではないんです。
本当の自然というのは、人間と山と
川と共にそれぞれを尊重しあい、理
解しあってこそ存在するもの。私た
ち日本人には、それができるはずな
んです。なぜかと言えば、日本の八
割は森林で、その中で長年森の恵み
を受けて暮らし、育ってきた私たち
は、『森の人』だからです」と柳田
さんは自然について熱っぽく話す。
柳田さんは現在、県の環境生活部
環境保護課に勤める傍ら、「かごしま
自然観察会」のレンジャーとして、
自然観察活動や広報活動などをして
いる。

この「かごしま自然観察会」は、
以前から環境保護関係のボランティア
活動をしていた柳田さんたちが、
県内にこのような団体がなかったた
め昭和六十二年に設立した「鹿児島
県自然観察指導員連絡会」が、平成
五年に名称を変更したもの。現在、
県内におよそ百二十人の会員が
おり、年一回総会を開いて、情報交換
や問題点を話し合う。普段は各地域
で会員が集まって話し合い、自然観
察会などを催している。

柳田さんは大学生時代、熊本市で
発生した大洋デパートの火災に出合
い、その時消火作業や人命救助など
をしていた消防隊員や医師、自衛官
などの公務員を見て、自分の道はこ
れだと思って公務員になったという。



県職員となり、災害対策や離島の
救急対策などを担当しているうち、
厳しく恐ろしいだけではない自然の
姿にふれ、自然が人間にとっても
も大事なものであるのではないかと
ことに気づいた。これからの郷土づ
くりには、自然はなくてはならない
ものだから、未来を背負う子ども
たちに本当の自然を理解してもらわ
なくてはと自然保護のボランティアを
続けているうちに、自然の魅力にと
りつかれ今に至ったのだそうだ。

柳田さんの職場の休日は、土曜・
日曜・祭日だが、休日にはほとんど
家にいることがなく、県内各地の森
林や湖沼、河川のフィールドに立
つ。そして、自然や野生動物の保護
のこと、自然のすばらしさ、これか
らの自然のあり方を、自分の体験を
交えていろいろな人に語っているの
だという。その時、話のなかに必ず
出てくる言葉がある。それは「自然
を理解するなら、よく見る、とらな
い、殺さない、名前にこだわらな
い、そして、ありふれた普通の自然
を大切に」。

自然の大切さが叫ばれている今
日、いざ行動するとなると、どうし
たらいいのか戸惑ってしまう人や、
人間だけに都合のいい自然保護を
してしまう人が多いのではないかと。そ
んな中で自然について人間中心だけ
ではない知識を持っている人が自分
の身近にいるということは、私たち
にとって大きな財産だと言えるだ
ろう。

(KKB鹿児島放送 森口伸一郎)

柳田 一郎さん

1954年 鹿児島県生まれ
1977年 熊本大学卒業
同年 鹿児島県職員に採用
1996年 4月より環境生活部環境保護課勤務



学校探訪



大樹のもと元気なあいさつ
 明るい笑顔の集う宇宿小学校



学校周辺の清掃（地域ボランティア活動）



いろいろ教えてもらえます（高齢者とのふれあい活動）



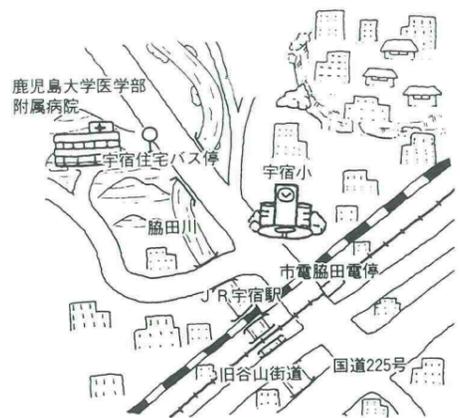
昼休みの紙芝居（図書室）



大きなさつまいもがとれました（学校農園）



●創立 明治12年
 ●児童数 547人
 （平成8年12月2日現在）



宇宿小学校

仲よく元気なうすきの子

宇宿小六年 板山 智美

私たちの宇宿小校区は、旧鹿儿岛市の最南端に位置し、東は紫原台地、西は大学病院などのある亀ヶ原台地に囲まれていて、南は産業道路の走る海岸線の埋立地まで続いています。学校はそのほぼ中心部にあり、学校のすぐ前を脇田川が流れています。

今年で開校一一八年の歴史と伝統のある学校で、十七学級で児童数五四七人の学校です。

私たちの学校で自慢できることは、まず、大きなクストケヤキの木です。学校に入ると、まずその緑が目につきます。市の保存樹になっていて、一番大きなクスは茎のまわりが三・五メートルもあり、開校のときからずっと、宇宿の子供たちの成長を見守ってくれているのだそうです。いつも緑がいっぱいですが、季節によって様々に変化し目を楽しませてくれます。

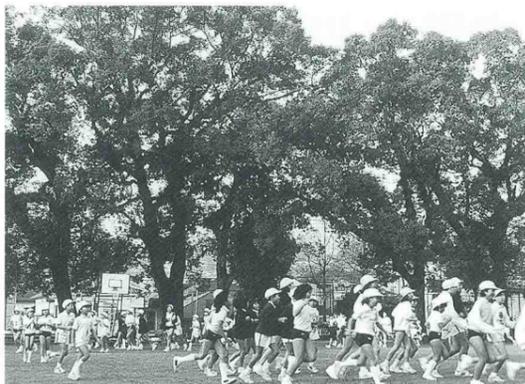
次に、安全に気をつけて、明るい元気なあいさつができるということです。

学校のすぐ近くは商店街で、J Rの宇宿駅と市電の脇田電停があり、交通量が多く、交通事故にあわないようにいつも気をつけています。地区ごとに登校班を作り、きちんと並んで登校しています。上級生が下級生の面倒を見ているので、みんな仲よしです。

通学保護員さん方に、いつも気持ちのいいあいさつができるとほめられています。

三つ目は、元気いっぱい朝のかけ足を毎日続けていることです。八時過ぎになると、校庭いっぱい、かけ足の大きな輪が自然にできて、先生方も一緒に走り、みんなで体力づくりに励んでいます。

私たちは、校訓の「仲よく、元気な、うすきの子」を合言葉に、みんなで力を合わせ、すばらしい学校づくりを目指していきたいと思っています。



大樹に見守られて（早朝自主ランニング）



**12月2日 赤崎市長
四期目の抱負を述べる**

12月1日に行われた市長選挙で当選した赤崎義則市長が、翌2日、助役や職員の拍手に迎えられ、初登庁しました。その後、本館講堂で職員を前に、これからの4年間は21世紀を目前にひかえ、鹿児島がさらに飛躍するために地方主権を進めていく大事な時期であると、四期目の抱負を述べました。



10月1日 透明ごみ袋によるごみ出し試行開始

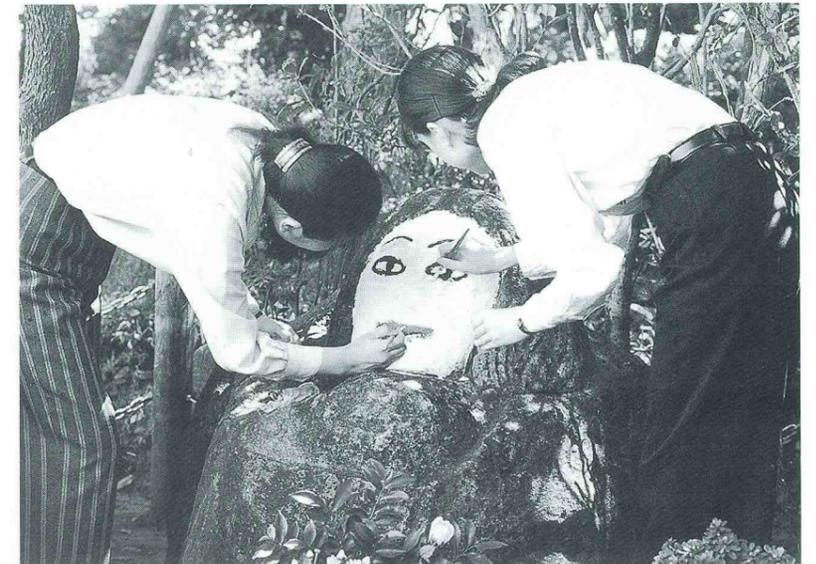
ごみの分別の徹底や収集時の安全確保などを目的とした「透明ごみ袋によるごみ出し」が10月1日からスタートしました。市民のみなさんのご協力をお願いいたします。



11月2日・3日 おはら祭開催

秋晴れのもと、南九州最大の秋まつり「おはら祭」が約250の踊り連、22,000人の参加で盛大に開催されました。観客も60万人を超え、街にはにぎやかなかけ声が飛び交い、祭り気分を満喫していました。

CAMERA カメラ・トピックス TOPICS



10月5日 持明院様（ジメサア）の化粧直し

市立美術館敷地内でジメサアとして親しまれている石像の化粧直しがありました。1年ぶりにおしろいに真っ赤な口紅をさしてもらったジメサアは、うれしそうににっこり笑みを浮かべていました。



10月23日～11月4日 黒潮浪漫展

薩摩の漂流民ゴンザ直筆の著書を中心とした黒潮浪漫展が市立図書館でありました。ロシアに漂着し、21歳の若さで亡くなるまでに書き残した露日辞典の原書などに訪れた市民は見入っていました。



11月10日 福祉ふれあいフェスティバル

障害者を中心に、ボランティアや市民が多彩な催しを通じて相互に交流し、理解を深める福祉ふれあいフェスティバルが開催されました。コンサートやトークショーのほか、音楽会、模擬店、スポーツ交流など終日にぎわっていました。



11月5日 ミス鹿児島冬服披露

11月2日おはら祭でデビューしたミス鹿児島。さっそく白を基調に黒のアクセントを配色した上品な冬の制服を披露してくれました。1年間、笑顔で元気に観光鹿児島のPRに頑張ってくれよう。

HELLO KAGOSHIMA



ハロー鹿児島

フィオナ ロバートソンさん

F. J. Robertson

(オーストラリア パース市)

昨年八月から、鹿児島市役所の国際交流アドバイザーとして活躍しているフィオナ・ロバートソンさん。

出身は、本市の姉妹都市オーストラリアのパース市。二年間、始良郡でALIT（外国語指導助手）をつとめた後、市役所の国際交流課にやってきました。公民館や小・中学校などで、講演会や授業、料理教室など市民に密着した国際交流につとめる一方、英文情報誌の発行、本市の国際交流活動に対する助言など、その活躍は多方面にわたっています。

今年、日本にきて三度目のお正月。もう、すっかり日本語も大丈夫。彼女と初めて話す人はたいいてい、ときどきポンと飛び出す鹿児島弁にびっくりしてしまします。

上達の秘けつは？

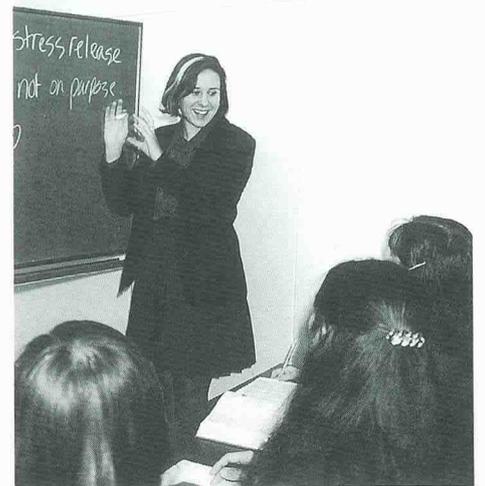
「せっかく日本にいるんだから、思いつきりこのライフスタイルにトライしてみるのかな。」

いろんな違いがあるのは当然、国は違っても気の合う友人は作れるし、素敵なことは見つけられる、とのこと。

その一つが習い始めて約二年になる日本舞踊。

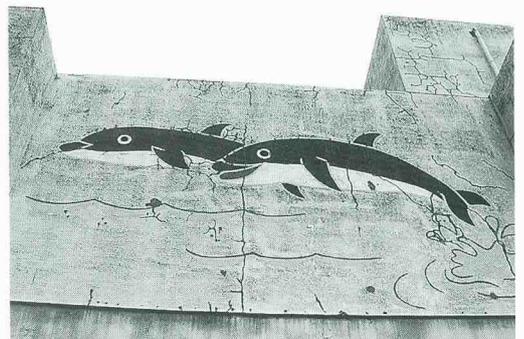
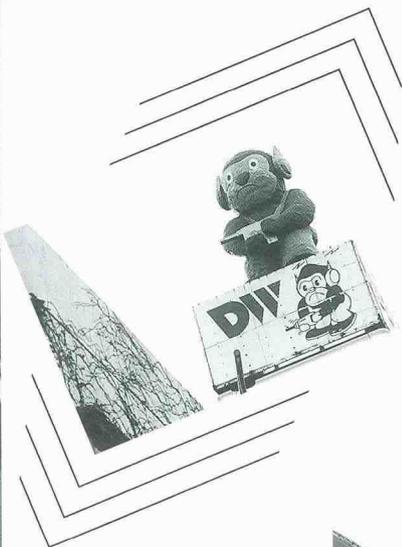
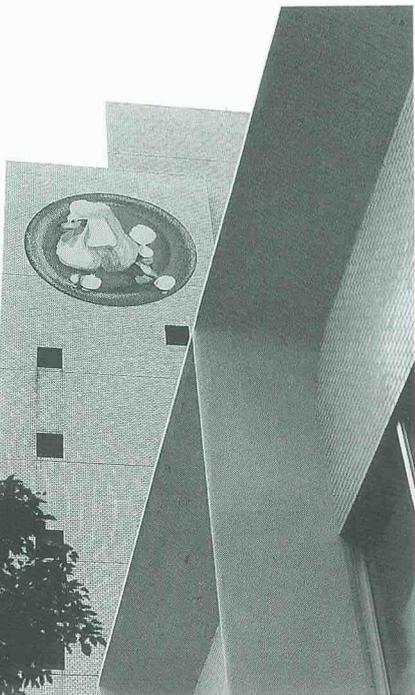
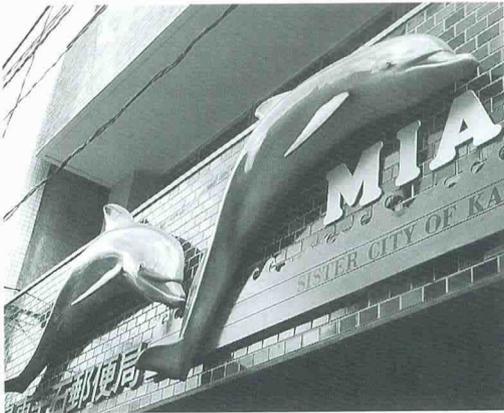
「小さいときからバレエを習ってたけど、美しい踊りには、姿勢とか手の振りとか共通のものがあると感心したわ。」と、日本舞踊の所作を少しはにかみながら披露してくれました。

休日は得意の料理で各国の友人をもてなしたりと、毎日いきいきと過ごしているフィオナさん。太陽きらめく「光のまち」パースにふさわしい朗らかな女性でした。



CITY ANGLE

シティーアングル



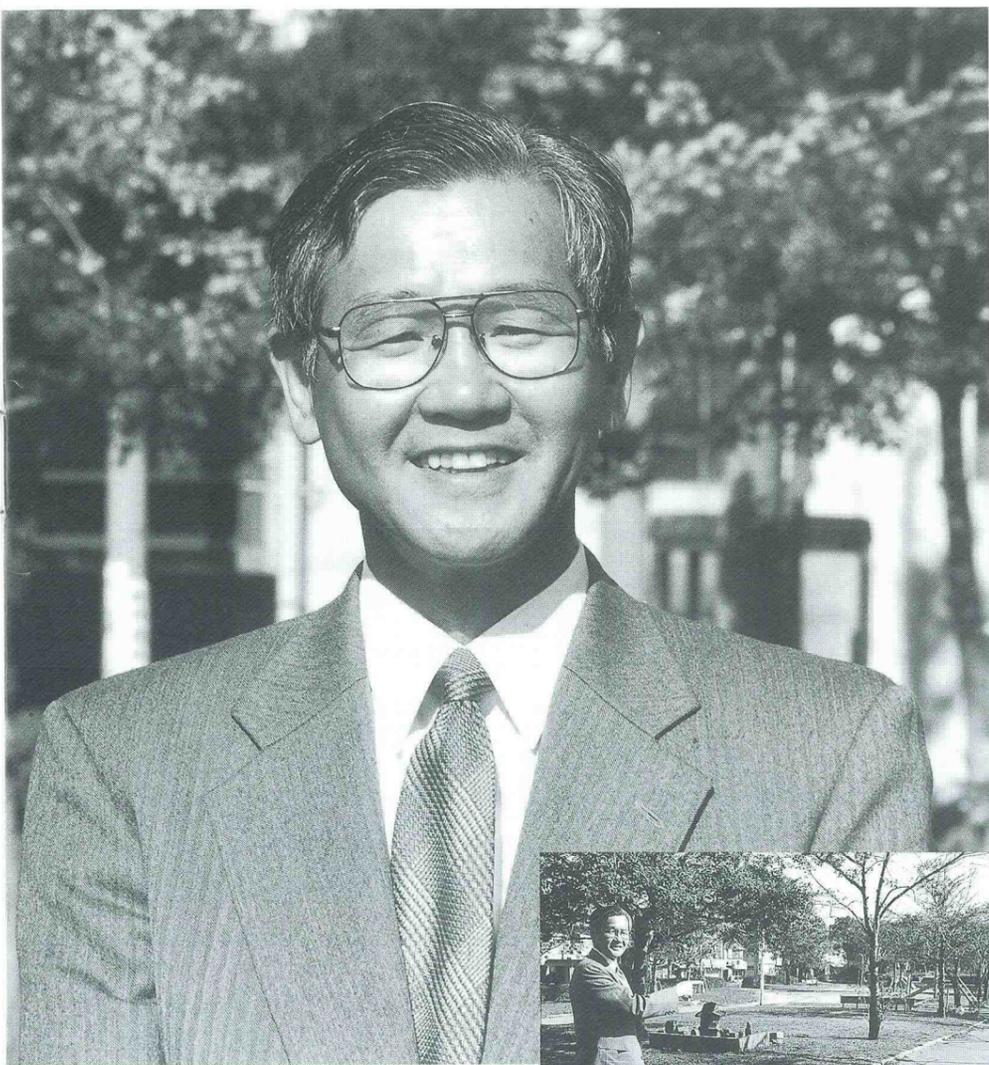
見上げてごらん

緑と土の香りに 郷愁を感じて

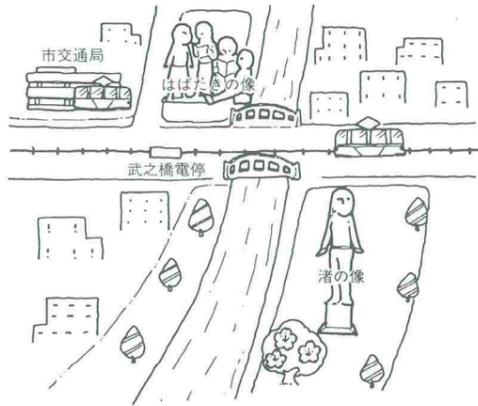
日本貿易振興会（ジエトロ）
鹿児島貿易情報センター所長

橋田 邦通さん

私の好きな 場所



この辺りをジョギングするんですよ
～新屋敷町の甲突川左岸緑地



● 甲突川河畔

鹿児島市に赴任して、二年三ヶ月がたちました。仕事で中南米での生活を体験したことがあるためか、住まいの近くに中央警察署があると知ったときには、妙に安心しましたね。私は「治安がよく、緑が多い、そして土の匂いがある」所が大好きなんです。ここ甲突川河畔は、まさにこれらの条件を満たす絶好の場所ですね。

また、私が生まれ育った三原市の山間の風景にどこか似ていて、どことなく郷愁をかきたてられる場所でもあります。

● 県立鴨池庭球場

ここ県立鴨池庭球場の12番コートは、たいへん印象深い場所なんです。

私がテニス始めたのは、ペルー赴任を終えて帰国した、昭和五十七年の年末のことです。自宅の近くにテニスクラブがあったこと、腰痛のため通っていた病院の先生の勧めがあり、始めました。

海外赴任のときも、テニスを通して現地の方々と交流ができ、楽しい思い出もたくさんできました。腰痛治療も兼ねて始めたテニスですが、私にとって言葉以上のコミュニケーション手段になってくれたのです。

鹿児島に赴任したときも、仲間づくり、そして健康づくりのため、さっそくテニスクラブに入れてもらいました。初めて練習に参加した日にやって来たのが、この鴨池庭球場。みんなに紹介してもらったあと、最初に作った作業が、この12番コートの灰取りでした。テニスコート一面に積もった灰に驚きながら、手押しの灰取り機を使いましたね。

そして、赴任して一ヶ月ほどたった平成六年十一月には、県テニス選手権のベテランの部に参加。最初にプレーしたのも、この12番コートでした。相手は、強敵の吉田選手。惜しくも1-2で負けてしまいましたけれど、吉田さん相手に健闘したことで、テニス関係の方々に名前を覚えてもらえましたね。何かこの12番コートは、私に来るべくして来た場所です。

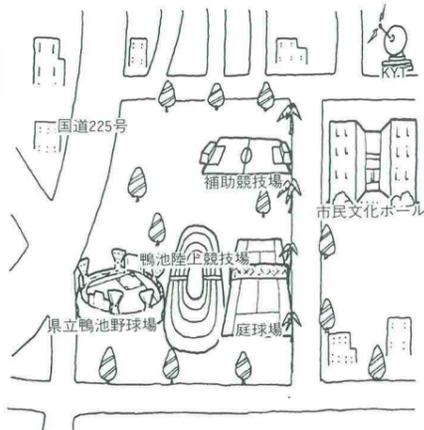
河畔のすばらしい作品に安らぎを感じますね
▲『渚』～甲突川河畔（新屋敷町）

▼『はばたき』～甲突川河畔（高麗町）



ここに立つと、
いろんな思い出がよみがえります
～県立鴨池庭球場12番コート

取材メモ



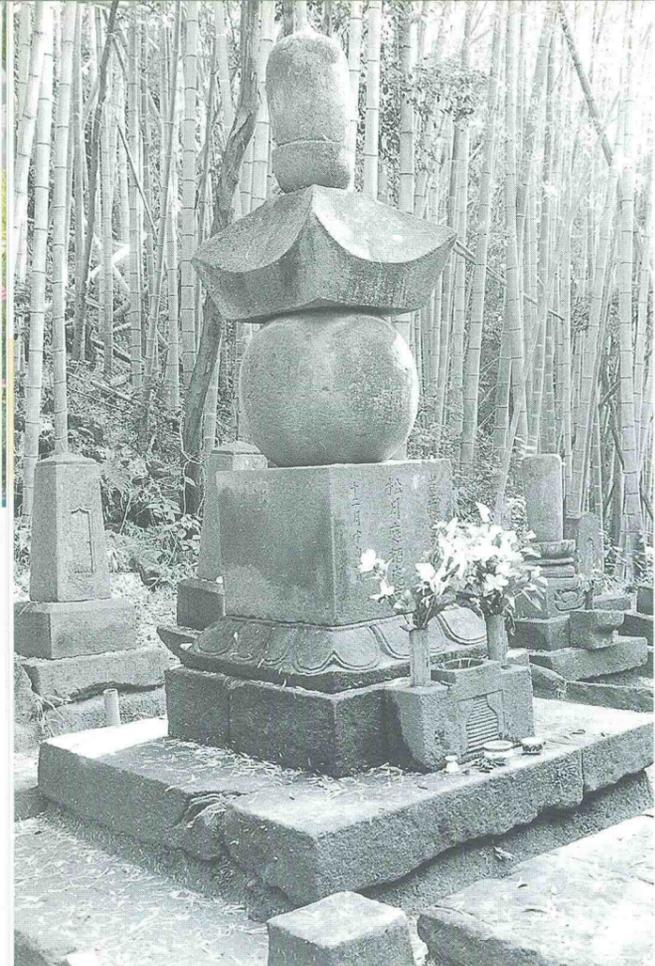
これまでペルー、ベネズエラの2カ所で海外赴任をされた橋田さんは、まず外国の方々の知識の豊かさに驚かされたとのこと。「パーティーではダンスの時間もあったんですが、いまだにダンスは不得意なんですよ。」と笑う横顔が印象的でした。

鹿児島には単身赴任。朝・晩はほとんど自炊。昼食はなつかしい子ども時代の思い出もあり、弁当持参とか。奥さんと娘さんの待つ横濱には、仕事の関係で年に一・二回帰るんですが、毎日の電話は欠かせないとのこと。

鹿児島島のイモ焼酎もすっかり気に入って、晩酌で湯割りを嗜んでいらっしやいます。「焼酎はイモに限りませんね」と話してくださいました。

終始にこやかに話してください、たいへん和やかな雰囲気取材することができました。その口調に濃厚な人柄を垣間見た気がします。

住まいは新屋敷町。
広島県三原市出身。五十五歳。



五輪塔



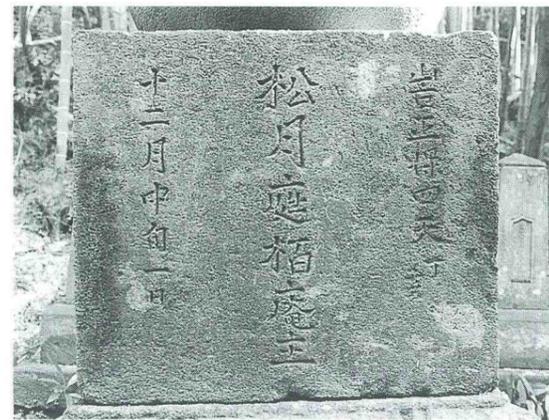
島津久章墓地全景



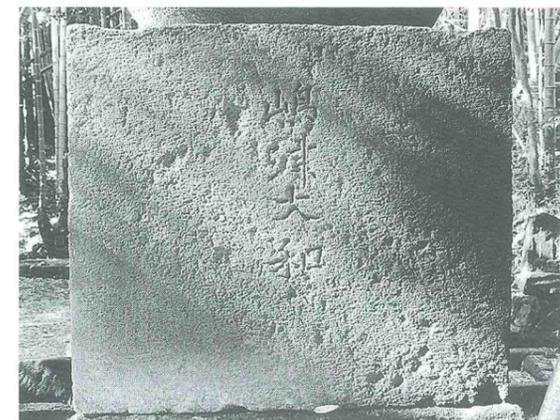
供養薩摩板碑



供養小五輪塔



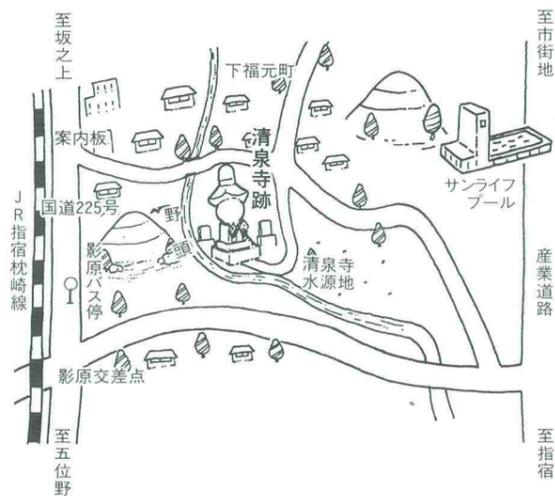
地輪正面



地輪裏面

ふるさとの
歴史探訪

新城垂水家
初代島津久章の墓



下福元町草野の如意山清泉寺跡の北側、一番奥まった所に、高さ約二メートルの大きな五輪塔がある。この五輪塔は県内では最も大きい。地輪の正面に正保四天（一六四七年）丁亥十二月中旬一日、松月庭栢庵主、裏面に鳴津大和と刻してある。島津大和守は新城垂水家の創立者島津久章である。

垂水島津家は加治木家、重富家、今和泉家と共に島津家の御一門家で、元祖は島津忠良（日新）の二男で、十五代貫久の弟の忠将である。この忠将から四代目の久信の三男が久章である。久章は十八代家久の娘を妻とし、化粧料一千石をもらい、また、祖母新城様（十六代義久の三女で垂水家三代の彰久の妻）の三千七百石も譲り受けて、寛永十三年（一六三六年）新城垂水家を創建した。時に二十四歳。久章は文武にすぐれ、極めて頑健、容姿も整い、銃術、弓術にも優れ、その技術は藩内の第一人者と言われた。家久は久章を家老として一千石を与え、新城松尾城内に役所を設け、諸制度を整えた。また、十九代光久の信任も厚かった。

寛永十七年（一六四〇年）久章は、光久より年頭の礼使の大役を受け江戸へ行く。江戸に着いてからは病氣と称してすぐ登城せず、後になって將軍に拝謁した。江戸滞在中御三家の水戸、尾張家に挨拶を済ませ、最後に紀伊家に参上し丁重な扱いを受けた時、薩藩家統問題、義久隠居相統問題、久信の毒殺問題、垂水家家統問題等の事情を直訴した。このため江戸薩藩藩邸では、久章が精神異常のため監視中であるとして監禁した。

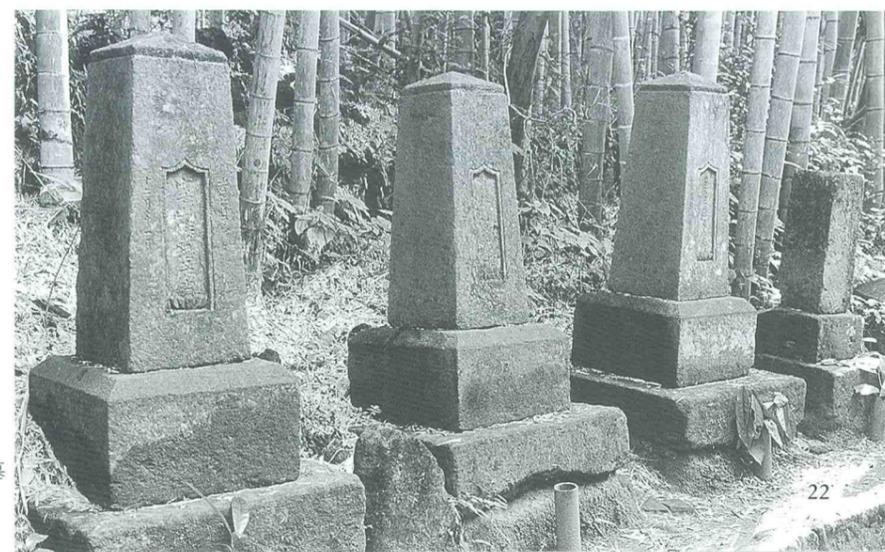
紀伊家に寄った際、駕籠に乗ったまま玄関に横付けし挨拶したとの説もある。光久の上京中、久章は京都見物を理由に暇をもらい京都に行き、その後高野山連金院に隠れたが発見され帰国した。久章の無作法は許し難いとして、川辺の宝福寺（通称山寺）に禁固され、ここで五年過ぎた。その後遠島を命ぜられて清泉寺に移されたが、久章はまだまだ島津家では流罪の例はないとしてこれを断った。そこで兵具奉公三原伝右衛門を討手とし、上意討の命が下され清泉寺を開き、西方の高台から放った矢に股を傷つけられ、遂にここで自害した。時に三十三歳。家臣財部権之丞、山下才七・才次は応戦したが殉死した。

この事件により新城垂水家は断絶、領地没収、長男忠清は垂水家に預けられ、久章の夫人は間もなく自害した。

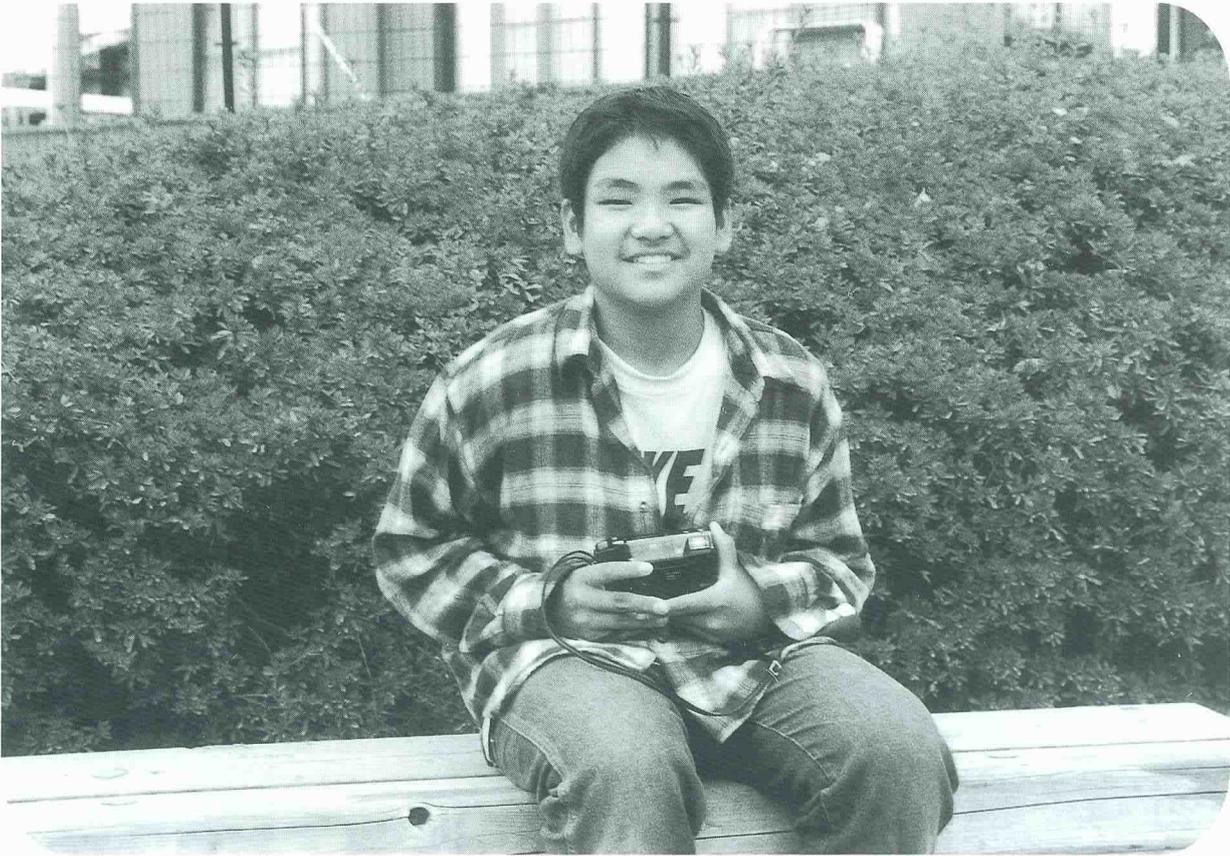
久章の死後五十六年経過した元禄十四年（一七〇一年）にこの五輪塔が建立された。明治末年頃まで、抱瘡の神として信仰されていた。久章自害後、この近くの村落では悪病がはやったので、久章の

慰霊のため棒踊りを奉納した。今でもこの地区には棒踊りが残っている。墓前に竹を植えたが、根が下に張らず、上に出てきたので、これは久章の憤懣の表われだと恐れられ、除去したという話も残っている。

前鹿兒島市文化財審議会委員
木原 三郎



家臣殉死墓



よかタイム

YOKA-TAIMU

よかタイム 7つの質問

Q1 カメラを始めたのはいつから？
自分から被写体を選んで撮るようになったのは、小学校五年のときです。いま中学二年ですから、四年前ですね。

Q2 カメラを始めたきっかけは？

A2 父の趣味がカメラなので、その影響を受けて始めました。幼いころから父のカメラや写真を見ていたので、いつか自分でも撮ってみたいと思っていました。

Q3 カメラのおもしろいところは？

A3 できあがった写真に自分の素直な気持ちが表示されるころが、おもしろいと思います。自分の気持ちが充実しているときには、シャッターをきるときに手応えを感じることもあります。そうして撮った写真は、やっぱり出来もいいですよ。

Q4 写真を撮るうえで難しいと感じることは？

A4 人の表情を生きたままと表現することは難しいですね。人の一瞬の表情をタイムイングよくとらえることに、たいへん苦労しています。

Q5 今まで撮った写真で、一番印象に残っているものは？

A5 やっぱり、おはら祭の写真ですね。踊ったり、太鼓を打ち鳴らす人々の笑顔や真剣なまなざしがうまく表現できたときは、「やった！」って感じます。

Q6 家族の反応は？

A6 父は、できあがった写真をみて「これがいい」と言ってくれます。父とカメラについて会話する時間を持つって貴重だなと思います。

Q7 これから撮ってみたいと思っているものは？

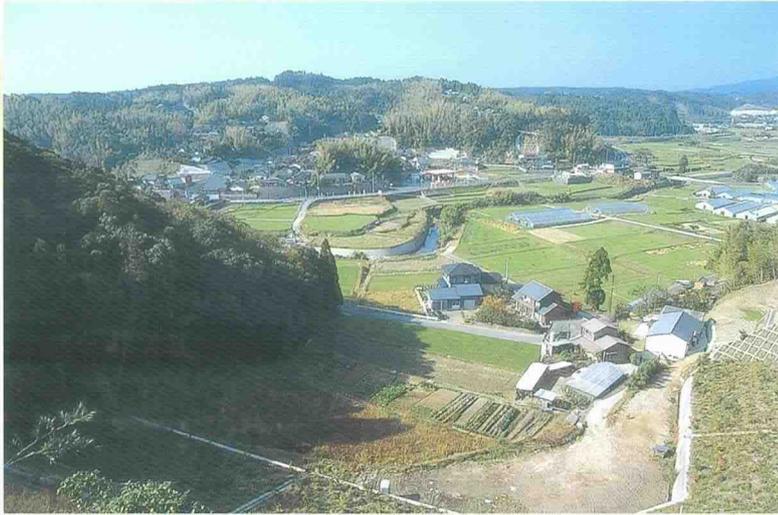
A7 特に「これ」って決めているものはありませんが、イベントなど人が多く集まるところでいろんな人の表情を撮ってみたいです。



「おはらで「ドスコイ」」
(唐見友輔さんの作品)
～第43回おはら祭にて

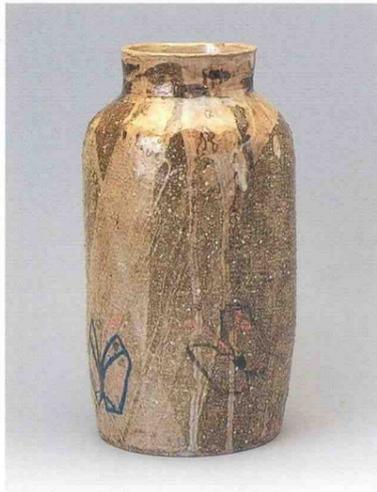
友輔くんは、中学二年生。カメラのほかに、現在打ち込んでいるのが、バレーボール。小学四年生のときに始めて、現在は中学校のバレーボール部に入り、日々練習に励んでいると話してくれました。これからも、カメラ、スポーツ、そして勉学に頑張ってくださいね。

かごしまの自然



小山田町





「欽」渡司睦子さん



「宴」図師成子さん



「輪」古川順子さん



「熔岩壺」今泉正代さん



「抱瓶」黒木順子さん



土橋兼雄さん



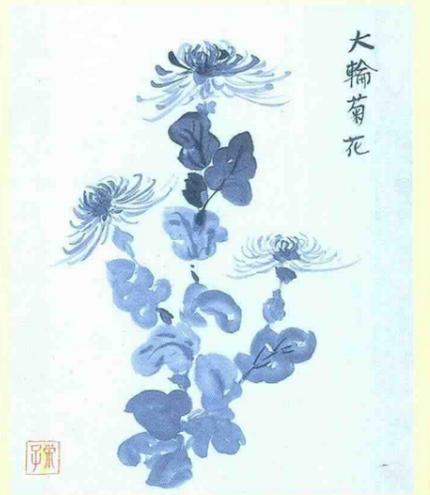
前田郁子さん



西吉ユミさん



大保とよみさん



平島栄子さん

初心者グループの「紫雲会」にベテラングループの「吉陶会」。経験年数の違いはあれ、そこで制作に取り組む皆さんの目はいきいきと輝いています。皆さんの作品をゆっくりと鑑賞ください。

陶芸「吉陶会」は、濱崎吉郎先生の指導の下に毎月第二・四金曜日に活動しています。平成二年度公民館講座の修了生で結成し、その後の講座修了生も加わり、現在の会員は二十三人です。明るく和やかな雰囲気の中で、壺、鉢、小皿、花器など思い思いの作品をつくっています。

会員二十三人で、身近な草花を描きながら、水墨画の基礎的な技法（運筆、筆法、表現法）を身につけようと、楽しく学習に取り組んでいます。

水墨画「紫雲会」は、上畠茂先生の指導の下に毎月第一・三火曜日に活動しています。平成八年度前期公民館講座の修了生を中心に、

みんなで学ぶって、楽しいですよ。今回は武・田上公民館の自主学習グループで、水墨画「紫雲会」と陶芸「吉陶会」の皆さんの作品を紹介します。

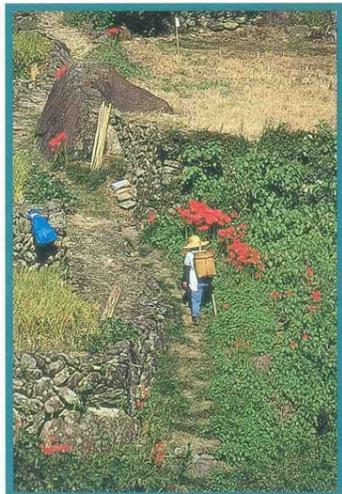
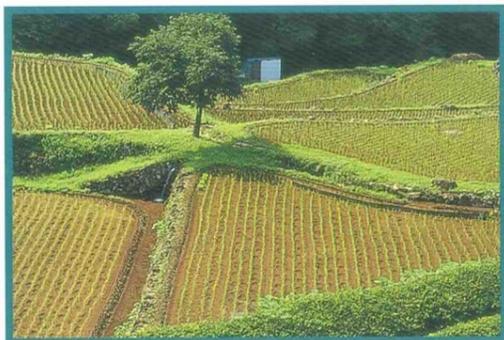
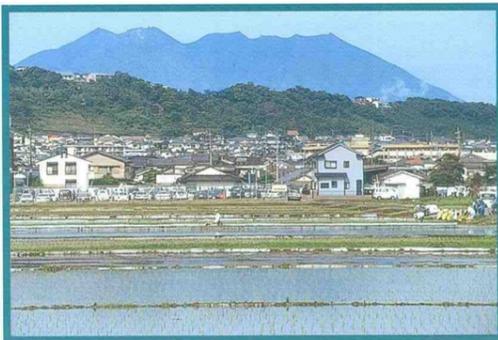
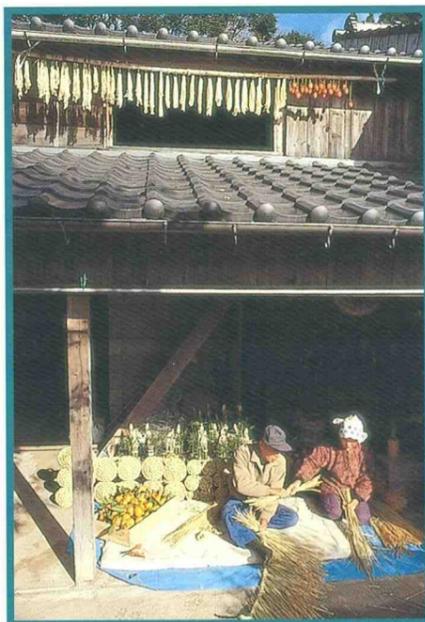
市民ギャラリー

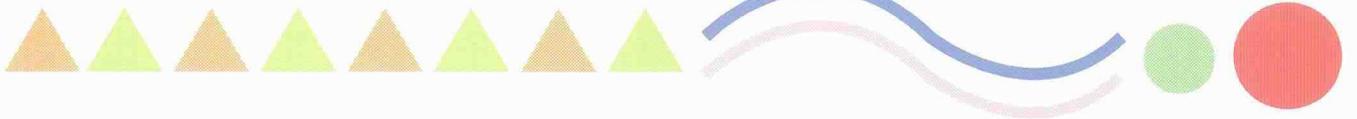
● 武・田上公民館・自主学習グループ ●

あなたのフォトサロン

写真と文 佐藤 眞一さん

ふるさとの農景色
 農は文化の原点です。環境の変化につれ、農の風景も年々変わりゆく宿命にあるようですが、町の周辺、山村の片隅でささやかに今も健在な農景色を見いだすとき、なぜか、ほっとさせられます。文化のふるさとが農にあるゆえんです。





皆与志町皆房地区に古くから伝わる「皆房棒踊り」。その保存、伝承、そして後継者の育成のために活動しているのが「皆房棒踊り保存会」の皆さんです。昨年十一月に開催された鹿児島市ふるさと芸能祭にも出演し、その華麗で力強い踊りを市民の皆さんに披露しました。

この「皆房棒踊り保存会」は昭和二十二年に結成され、現在の会員は三十一人。地元の方々を中心に、下は十三歳から上は六十歳までの幅広い年齢の方々が構成され、世代の壁を越えて楽しく活動しています。

この「皆房棒踊り」は、キョゲン・玄平・ジャンキン・八人棒・又打棒・ムネン谷・ヒラサ棒の七つの芸態で構成され、唄も六人の歌い手が交替で歌うのが特徴です。

「私が幼いころ、地域の方々が踊る姿を見て胸はずむ気持ちがあったという思い出があり

集えば楽し

「皆房棒踊り保存会」

伝統の踊りに
磨きをかけて

ます。春の農耕に先立ち五穀豊穡、無病息災を祈願するもので、江戸初期から伝えられている踊りだと言われています。今はなかなか若手会員が増えないのが悩みの一つです。」と、会長の福盛光雄さんは話してくださいました。

この「皆房棒踊り」は、皆房の諏訪神社二月祭で披露されるもので、現在は来月の本番に向けて練習が繰り返されています。

黒がすりの浴衣に赤いたすき、頭には白い鉢巻き、腰には黄色い帯を締め、足には白足袋とわらじという色鮮やかな扮装の「皆房棒踊り」とともに、この地区にも春の足音が聞こえてきます。

古き良き文化を後の世にも残そうと頑張る会員の方々の雄姿。あなたも、伝統文化にふれてみませんか。

(問い合わせは福盛さん ☎ 二三三八一五七二二)



市立美術館

〈三聖図〉 (1850年)

材質 絹本墨画着色 形状 軸装、三幅対 サイズ 各116.0×47.5cm



能勢 一清 (1790~1857)

能勢一清は、江戸時代後期に活躍した鹿兒島の絵師である。木村探元の高弟、能勢探龍の曾孫にあたる。名は泰央、通称は武右衛門、小字は十郎次という。初め黙観と号し、西田の森玄心の門人となる。玄心は探元の門人、森探瑞の弟である。しかし、15才の時にその門を辞し、もっぱら狩野探幽や探元の作品を臨写して研究を重ねた。特に、探元については造詣が深く、よくその画風に迫る作品を描いた。

井上良吉編『薩藩画人伝備考』によると、伊集院の廣濟寺に十六羅漢図を描いて納め、嘉永6(1853)年には、郡山の花尾神社改築の際、島津斎彬の命により殿内格天井に草花の絵を描いている。弘化、嘉永年間の薩藩では、最も優れた絵師と評され、その作品も比較的多く確認できる。

画号に、浄川軒、烹雪庵、静得、懷得庵、心齋などがある。安政4年8月27日、68歳で没し、新照院の大徳寺に葬られた。

解説

三幅対の掛け軸に、中国風俗の武人が三人、端正な姿でたたずんでいる。各幅に「烹雪庵一清図」という落款があり、中幅には「嘉永三庚戌歳春日應岩元氏之需」と記されている。これにより本図は嘉永三(一八五〇)年の春、一清六十一歳の制作になることが分かる。

「三聖図」と題されているが、描かれているのは中国の三国時代の武将たちである。つまり、中幅が劉備、右幅が関羽、左幅が張飛を表わしていると考えられる。この三人が義兄弟の約束を結んで活躍する様子は『三国志演義』に記されており、日本でも古くから愛読されている。三人の中でも、関羽は後に軍神とあがめられ、絵画の題材として独立して描かれることがある。

三人はおのおの理想化されてはいるものの、個性的な容姿で描かれている。衣文線は滞りなく引かれ、清澄な色彩が施されていることから、一清の高い技量をうかがうことができる。三人の背景に配された桃の花は、早春のさわやかな空気を伝えている。狩野派の作品ではあるが、このような季節感の表現に、大和絵的な雰囲気も感じられる。

市立美術館学芸員
山西健夫

成人病予防のため、 基本健康診査・がん検診を 受けましょう。

成人病とは、中年以降に発病することが多い
高血圧や動脈硬化、がん、心臓病、脳卒中、
糖尿病などの疾患の総称です。

これらの病気は、いずれも慢性的に長い年月
をかけて、徐々に進行します。

しかし、発病しても、早期に正しい治療を受
け、摂生した健康習慣を続ければ、ふつうの健
康な人とあまり変わらない生活が送れるのも多く
の成人病に共通した点です。

“人生80年時代”の今、健やかな明日のため
に、まず、基本健康診査、がん検診を受けま
しょう。

●検査内容

基本健康診査(無料)

理学的検査(視診・触診など)
血圧測定及び検尿
血液検査(肝機能・血糖など)

……32歳の女性・40歳以上の市民

がん検診(有料)

がん検診

- 胃がん検診……40歳以上の市民
- 子宮がん検診…30歳以上の女性
- 乳がん検診……30歳以上の女性



●実施期間 平成9年3月31日まで

●実施場所 市内の病院、診療所

(一部実施していない医療機関があります。)
※胃がん検診は地域を巡回して、小学校などで
実施します。

鹿児島市中央保健所検診係 TEL258-2321
(内線321~324)



受診される際は
受診券はがきを
ご持参下さい。